



JAPAN HANGGLIDING FEDERATION

JHFレポート

9・10月号
2001年

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

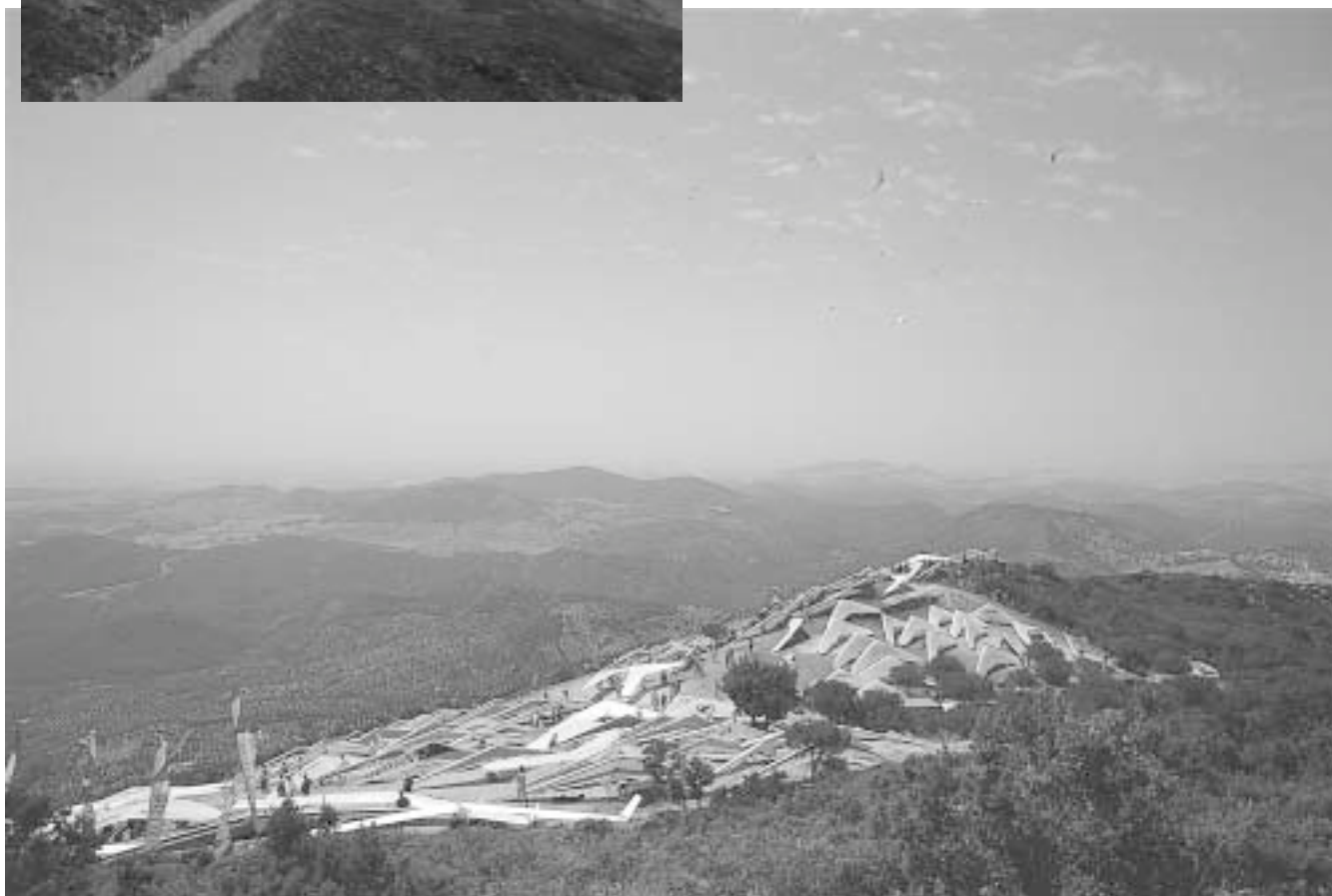
<http://jhf.skysports.or.jp/>



天高く、どこまでも。

記録的な猛暑もピークを過ぎ
山々には秋の風が吹き始めた。
ひいやりと心地よい空気を
体いっぱい呼吸して
さあ、テイクオフ。

左:パラグライディング世界選手権の舞台、シェラネバタ山脈の全容。
下:ハンググライディング世界選手権。西ランチからテイクオフする。



JHFレポート 9・10月号

Contents

P 2 JHF新役員活動開始

P 4 **安全講座** 雷

P 5 命を捨てるな

P 6 HG&PG世界選手権報告

P 9 県連だより 石川県フライヤー連盟

P10 県連ニュース カレンダー

P11 委員会の動き

P12 6月総会報告 理事会ダイジェスト

P13 **@sky** 空の楽しさ満載の情報ページ

JHF 新役員活動開始

6月通常総会の場で選挙を実施。正会員による信任投票の結果、理事11名、監事1名の立候補者全員が新役員として選任された。今後の連盟活動の中核となる12名に抱負を語ってもらおう。



会長
朝日 和博
アサヒ カズヒロ

7月の理事会にて会長職を仰せつかりました。新理事が皆で協力しあってJHFを運営して行くという力強いパワーを感じて、私もできるだけの力を尽くす所存でありますので皆様のご協力をお願い申し上げます。

フライヤーの原点は、自由に、楽しく、且つ安全に自然飛行を楽しむところにあります。ご存知のとおり、日本ハンググライディング連盟（JHF）は空を愛する仲間が集まり、小さなグループを作って安全を第一に、お互いの交流を図るところから始まりました。年月の経過とともに、各地に連盟ができ、それが全国的な組織作りへと発展して行き、現在のJHFに至りました。これまで数多くの個人ボランティアによる熱意と努力により作り上げられてきました。

その目的は安全で楽しいフライトを目指すものであります。パラ、ハンググライディングは全く新しい技術による画期的な空のスポーツであります。それだけにわからないことだらけでしたが、数多くの先輩の努力と経験によって積み上げられてきました。

全てのフライヤーは何よりも安全を第一に考えているのですが、残念ながら不幸な事故も起きてきました。それでも人々の空に対する情熱は消えず、尊い犠牲から多くのことを学び、一歩づつ歩みを進めてまいりました。

このたび理事会を代表する形で会長職を引き受けました事、身の引き締まる思いであります。JHFはまだ発展途上にあります。積み残した問題の解決と未来を明るくするための施策を共に話し合いながら進めて行きたいと思っております。



副会長
瀬戸口 裕郎
セトグチ ヤスロウ

今後2年間副会長という重職を与えられ、責任の重さを痛感しております。また、3

月総会以後6月にかけてJHFの業務が停滞し正会員、フライヤー会員の皆様に多大なご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

さて、この度法務委員会（新設）および安全性委員会を担当することになりました。法務委員会につきましては、「定款」「規約」に基づき、組織の防御とJHFに係る法律上の様々な問題に係わる専門委員会として設置しました。

安全性委員会は、直接フライヤーの生命に係わる部署です。真剣に且つ繊細に各委員と共同して安全への取り組みを強化して行きたいと思っております。

「安全に」「楽しく」をモットーに、更にはフライヤーの皆様には的確な情報を素早く提供できるよう精進してまいりたいと思っております。



常任理事
関谷 暢人
セキヤ ノブヒト

この春に誕生する予定であった新理事会は難産に難産を重ね、ようやく6月20日にスタートしました。これだけ世間の注目を浴びたからには当然、今後が期待され、まずは「お手並み拝見」というところでしょうか。

さて、巷では「景気後退」だの「デフレ」などとあまりいい話はありませんが、JHFの内情はどうなっているのでしょうか。JHFの景気指数の一つである、愛好者の増減 - 今年1月から6月までのパラグライダー技能証発行数を見ると.....

A級技能証は前年対比109%の522人
このうち女性は前年対比107%の157人
以下同様に

B 証：前年対比91%の372人
女 性：前年対比116%の117人
NP証：前年対比70%の253人
女 性：前年対比70%の55人
P 証：前年対比77%の223人
女 性：前年対比72%の49人
XC証：前年対比65%の68人
女 性：前年対比60%の9人
TD証：前年対比48%の61人
女 性：0人

このデータでは、既存の愛好者の活動は鈍く見えるものの、新規愛好者は好調に誕生しているように思えます。各地のインストラクターさん、ご苦労様です。

JHF 理事会としては公共団体的立場で、スカイスポーツ界が発展普及するよう活動していきたいと思っております。



常任理事
長谷川 光雄
ハセガワ ミツオ

これからの社団法人日本ハンググライディング連盟（JHF）が、パラグライディング、ハンググライディングの我が国における唯一の代表機関として、国内はもとより国際的にも認知され信頼される連盟に育てていきたいと思っております。そして、都道府県連盟をはじめ、フライヤーはもちろん、インストラクター、スクール関係者、業界関係の皆様全てに、もっともっと身近な関係機関でありたいと思っております。

こんなにもスバラシイ、夢のあるスカイスポーツの愛好者を一人でも多く増やし、パラ、ハンググライディング人口の減少傾向に歯止めをかけ、フライヤーの皆様ので楽しいフライトのお手伝いのできるよう努力するつもりです。



常任理事
横尾 和彦
ヨコオ カズヒコ

新理事による理事会が4ヶ月遅れてスタートした。JHFに関わって6年あまり。今ここであらためて、考え、確認しようと思う。

- (1) JHFはフライヤーのための組織というが「フライヤーのため」とは如何なることか。
- (2) 社団法人であるならこのスポーツが世間で認められるための活動・努力とは何か。
- (3) 愛好者の育成を支えているのは誰か。

- (4)スポーツであるならその「未来希望」を社会に表現しているのは何か、誰か。
 (5)「生みの親」である航空協会との関係はどのようにあるべきか。



理事
伊賀 隆一郎
 イガリユウイチロウ

先日の総会において選任され、新米理事としてスタートしました。すでに1回目の理事会も終り、私はハンググライディング競技委員会を担当することになりました。

立候補当初の考えどおり、底辺の拡大、教員証更新時に経済的・時間的な負担のかからない方法などを心に置いて、皆様のご意見、ご指導をいただきながら業務に取り組みたいと思います。よろしくご申し上げます。



理事
田中 美由喜
 タナカ ミユキ

2回目のJHF理事となりました。ありがとうございます。

パラグライディング、ハンググライディングが世間に認知され、発展していくために、微力ながら寄与していきたいと考えています。フライヤーのための連盟にふさわしい事業を行うことができると思います。



理事
藤野 光一
 フジノ コウイチ

この度、JHF理事として選任されました藤野光一です。

立候補時にも述べさせて頂きましたが、私はあくまでサンデーフライヤーです。しかし、JHFの事業やビジョン等について、私のようなフライヤーにはなかなか情報が届かないこと、私達の意見がJHFに届かないことなど、不満に思っていたことがたくさんありました。この点については、事情もいろいろあるようですが、やれる事から着手して改善していきたいと思っております。

また、全ての事業や施策は誰のためであり、何のために行い、最終的にどんな効果や結果が得られるのかをしっかりと吟味し、必要であれば、正会員の皆さんや現場のスクール、エリアの関係の方々、そして、フ

ライヤーの皆さんに広く意見を求めることも重要と考えております。

そのために、まずはこういう方々との相互の絆をより強固なものにすることを重点に活動したいと考えています。

未熟者ではありますが、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



理事
松永 文也
 マツナガ フミヤ

JHFが組織として機能していくために必要なものは単に制度やシステムの問題にとどまらず、一貫した思想であり、フライヤーを指導していく強いリーダーシップだと思います。幸いにしてJHFが機能していくために必要な財政的な基礎であるフライヤー会員制度の基盤整備は前期にほぼ終了し、今期はその財政力を背景にいかにか政策を実現していくかが問われることとなります。残念ながらJHFの存在理由であるスカイスportsの普及振興という大目標は技能証の発行実績という数字で評価する限り実現出来ているとは言い難い現状です。今期は日本社会におけるフライヤー活動の在り方、適正人口の見極め、そのための社会基盤の整備といった一歩前進した取り組みに挑戦できればと考えています。まだまだルーチンワークですら十分に実現出来ているとは言えない現状ですが、今期こそ新しい政策への糸口を開いていきたいというのが、今期初頭に当たっての抱負です。



理事
宮川 一郎
 ミヤカワ イチロウ

JHFの理事に立候補した理由が、すなわち理事としての抱負になるわけですが、すでに立候補文をお読みの方には繰り返したことをお許しください。

あと1年半でフライヤー登録がJHFのフライヤー会員登録に完全移行します。それによってJHFの財政基盤も変化し、諸制度も変更していくこととなります。その流れをサンデーフライヤーの視点で見届け、疑問点を明確にし、言うべきことは何者も恐れず申し述べていきます。

担当は、広報出版局と教習検定委員会の主任理事のサブですが、都内在住ですので雑用を引き受け、JHFの円滑運営に貢献します。

フライト経験はパラのみ12年ですが、そのうち4年間は神奈川県のエリアで広報担当役員を、2年3ヵ月は群馬県のエリアで

助教員を務めました。

最近の初中級機の性能向上を見ると、JHFのみでなく、パラ関係者全体の協力で安全性向上に努める必要性を痛感しております。



理事
宮田 富由
 ミヤタ トミヨシ

フライヤーの皆様、この度JHFの理事になりました宮田でございます。今後ともよろしくご申し上げます。

早速ですが、私は、立候補時に所信したとおり、理事として次のことを一番に考え活動を行っていく所存です。

1 一般フライヤーの処遇

フライヤーが楽しく安全にフライトできるような処遇を考えていくこと。

2 普及活動の推進

スカイスportsを一般の多くの方々に理解してもらうことが私達の課題だと思いますので、普及活動を推進すること。

3 都道府県連盟の支援

JHFの活動の主体である都道府県連盟が活動しやすいように支援をしていき、都道府県連盟の活動の向上を図ること。以上が私の理事としての抱負です。

現段階では安全性委員会と、新設の法務委員会を、瀬戸口副会長と担当します。皆様のご協力をお願い申し上げます。



監事
宮川 雅博
 ミヤガワ マサヒロ

このたび、監事に就任いたしました愛知県の宮川雅博です。

前期より引き続きの監事となったわけですが、監査業務の遂行に多少の不安を感じています。これだけ規模が大きくなった団体の監査業務を一人でこなせるのか。自信はありませんが、できる限りの努力をしてみたい所存です。

併せて皆様のご指導をお願いしまして、挨拶とさせていただきます。

理事会は何をしている？

JHF理事会は原則として月に一回開かれます。そこで審議されたことは、JHFレポートの「理事会ダイジェスト」(今号は12ページ)で内容を要約してお知らせしています。詳しい記録を読みたい方は、各正会員(都道府県連盟)に送付される理事会議事録をご覧ください。



気象予報士 松田 光平

まだ遠くでゴロゴロいってるだけから大丈夫、飛んじゃえ！
.....と都合よく判断するのは大間違い。雷様を甘く見るな。

雷雲の予測は難しい

地震、雷、火事、オヤジ。オヤジの権威は失墜したらしいけれど、地震、雷、火事はコワイ。夏の風物詩と言えば雷。日本海側に住んでいる方々には雷といえば冬の風物詩かもしれませんが、太平洋側では、まあ一般的に夏に起こりやすい。特に北関東の山沿いなんかはひとたび上空に冷たい空気が入るものなら、連日のように雷注意報が発表さ

れたりします。今年もご多分に漏れず、梅雨明けが早かったこともあって、7月前半から暑いし、大雷雨。おかげで気象屋さんは大忙し。

夏場の対流不安定による雷雲の予測は難しく、「今日は危なそうだな」という予測はできても、どこで、何時に降るとはなかなか特定できないのが現状です。かなり局地性の強い現象であるため、天気予報を組み立てる基礎資料となる数値予報資料の網の目に

引っ掛からないのです。とはいえ、我々フライヤーにとっては死活問題。最近では携帯電話、その他モバイル機器の普及で、気象情報がいつでも取り出せるような環境が整ってきています。フライトする前に電話の天気予報177で、雷注意報が発表されていないかどうか、チェックする習慣を身につけましょう。携帯電話で見ることが出来る10分おきの雨雲の様子がわかるレーダー画面のサイトもあるので、探してみてください。

いきなり大暴れ

でも、いきなり出来て大暴れするのが、夏の雷。10分、20分で状況は一変します。最新の電子ツールを使いこなすのもカッコイけど、実際に空を見上げて状況を観察することももっと重要なこと。テイクオフから周りを見回して、雲の様子をよく観察します。積雲が見た目に縦方向にモコモコと伸びているようなら、その雲には近付かない。あまり変化がないようなら、雲底までは思う存分使いましょう。雲中飛行は禁止です。見た目には小さい雲でも積雲の中は上昇気流だけでなく、下降気流も混在して荒れ荒れのマリオネット状態です。横目に観察できる雲はまだわかりやすいけれど、頭の上に雲が広がってしまうと、その雲は積雲なのか、雄大積雲なのか、積乱雲なのかよく分かりません。まず、雲底に注目。白から灰色、そしてどんどん黒くなるようなら、かなり発達中の雲なので飛ばない。また、雲底部分もモコモコしているような時は注意。さらに風向きが安定しない、時折突風が吹くような時も飛ばない。積乱雲まで発達している可能性があります。当然雷鳴が鳴ったら、即降ろす、即下山。機体も速やかにたたみましょ。 「なんだ降らなかつたじゃないか」そう判断するのは早すぎます。一つの積乱雲の生成から消滅までのサイクルは大体30分～40分くらい。雷様が大暴れする時は集団発生するので、油断は出来ません。すぐに新たな雷雲が、しかも近くに発生するのが常ですので、御用心。

台風は過ぎて也要注意

雷はかなり局地性の強い現象ですが、盛夏から秋口にかけて日本付近の天気には大きな影響を与えるものとして台風が挙げられます。台風は雷とは違って規模の大きな現象ですので、影響が出てくるのも比較的早く察知できます。まずは上空の風から次第に強くなっていくことが多いので、晴れているのに風が強くて飛べなくなります。地上付近は摩擦があって風が弱くても、摩擦がほとんどない上空では地上よりも早く強風が吹きやすくなるので、台風の影響でいったん風が強くなり始めると、台風が通過して吹き返しの風が収まるまでフライトはできなくなります。台風に「まだ遠いから大丈夫」「もう過ぎたから大丈夫」という理屈は通用しないのです。

松田 光平（まつだこうへい）

鹿児島県出身。パラグライディング歴9年。ホームエリアは河口湖。(財)日本気象協会勤務。今年初の初飛びはまだだが、結婚して落ち着いたので後半はガンガン。

命を捨てるな

6月17日に静岡県の、7月5日に岐阜県のフライトエリアで、パラグライダーの死亡事故が発生した。またしてもハーネスのレッグベルト締め忘れが原因だ。これで、5月、6月、7月と、3人がレッグベルトの締め忘れというウツカリミスで亡くなったことになる。1ヵ月毎にひとり。なんとということだ!

パラグライダーもハンググライダーも、自然のなかで楽しむスポーツだ。しかも人間が空を飛ぶのだから「100パーセント絶対に安全」ということはあり得ない。しかし、100パーセントに限りなく近い数字にもっていくことは、飛ぶ者一人ひとりが努力すれば可能なはずだ。

特に、パラグライダーのレッグベルト締め忘れ、ハンググライダーのカラビナ掛け忘れ(フックアウト)は、飛ぶ前にしっかり点検していれば、必ず防ぐことができる。

「私はプレフライトチェックをいつも確実にやっているから大丈夫、そんな大切なことを忘れるほどボケちゃいない」大多数のフライヤーがそう考えるだろう。しかし、実際にベルトを締め忘れ、または、カラビナを掛け忘れ、あぶないところで助かった人の話を聞くがいい。彼らは異口同音に「点検をしたはずなのに、どうして忘れたのかわからない」と言うだろう。そう、あなたにも締め忘れや掛け忘れは起こり得るのだ。

では、どのようにこれらの事故を防ぐか。フライヤー各人が、念入りに飛行前点検するのはもちろんだが、締め忘れ防止を念頭に装備を選んだり、クロスチェックする習慣をつけることが大切だ。

クロスチェックとは、JHFレポート3・4月号にも掲載したように、フライヤーが相互に機体や装備を点検する方法。以下はその記事の抜粋だ。初めて読む人も二度目の人も、じっくり読んで頭に叩き込んでほしい。

これはハンググライディングでは「ハングチェック」という名前でも習慣化されている点検方法と同様のものである。つまり、自分の目で点検するだけでなく、他人の注意を活用して事故の防止にあたる……これは、同じような危険を伴うスポーツ、スカイダイビングや、スクーバ潜水、また軍隊の空挺降下では必ず用いられる手法である。そればかりでなく世間

一般でも、重要な部分の点検確認は必ず複数の目で行うことがごく普通になっている。

クロスチェック(相互点検)の概要は以下の通りである。

- 1 最初の「機材を装着しながらの点検」と「テイクオフ直前の点検」の間に「フライヤー相互で点検」を行う。
- 2 点検を受けるフライヤーが、点検して欲しい部分を一覧表などに従って声に出して読み上げる。
- 3 点検を行うフライヤーは、それに従って声に出して呼称点検を行う。点検を行うフライヤーは誰でも良い。

- 4 クロスチェック一覧表
レッグベルト(は確実にセットされているか、引っ張って確認する)
胸ベルト(は確実にセットされているか、引っ張って確認する)
カラビナ(の安全装置は確実にロックされているか、指で押して確認する)
緊急パラシュート(の閉鎖ピンは確実にロックされているか)
その他(カメラ、無線機、バリオなどの機材の脱落防止は良いか)

まず飛行機材装着時に点検し、次にクロスチェック、そしてテイクオフ直前に最終点検を行う。もともと装着時の点検と、フライトする直前の点検は誰でも行っている。クロスチェックとは、その中間に「フライヤー相互による点検」を行い、再度注意を喚起しようということである。

蛇足ながら、この点検方式はレッグベルト締め忘れを防止するだけのものではない。『ハングはハングチェック、パラはクロスチェック』これは、緊急用パラシュートの不時開放、無線機やカメラなどの不時落下、ハーネスバックルの不完全閉鎖などの防止にも必要な点検の習慣である。

(安全性委員会の緊急アピールより)

コンディションがいい時は、テイクオフ前に仲間を煩わせたくないから、自分で点検する……それは、正しいようだが間違っている。自分を過信してはならない。どんなベテランも、所詮は人間。ウツカリもあればボンヤリもある。空の自由を愛するフライヤーたる者、簡単に命を捨ててはならない。

アンダルシアの空に「世界」が集まった。

ハンググライディング&パラグライディング世界選手権報告



6月後半、スペイン南部のアンダルシア地方で、第2回ワールドエアゲームズ(WAG)が開かれた。4年に一度の「空のオリンピック」に、様々な翼をもつ飛び手が世界中から参加。ハンググライディングとパラグライディングは、世界選手権がWAGの競技に。それぞれ厳しいコンディションに悩まされながらも、世界一をめざして飛び競った。

パラグライディング世界選手権

日本チーム 田中美由喜

シエラネバダ

スペインの南西に位置し、マドリッドより約500km。グラナダの町からそそり立つ3400mの頂上を抱くシエラネバダ山脈が、パラグライディング世界選手権の開催地だ。シエラネバダとは白い山脈という意味で、地中海に面して雪を抱く山は、それだけで名前になるらしい。山脈は東西に伸びている。この山は夏の始まりまで雪を残し、冬はスキーリゾートとして有名だ。大会本部があるのは、シエラネバダの標高2300m付近にあるスキーリゾートのためだけの町。日本チームの借りたアパートは、この町の中にある。

テイクオフサイトは、標高2800mのD01、2100mのD02、1280mのD03とその日の

コンディションにより3ヶ所ある。これまでPWCを3回開催しており、エリアの持つポテンシャルの高さは定評がある。とにかく雨は降らないので、風が強すぎない限り毎日飛べ、風の強さや向きによって様々なタスクが組める。好条件だと高度5000mを超えることもある。反対に、サーマルが強く気流が荒れてレスキューパラシュートを開くことも多く、選手からは少し恐れられている。また、山が大きすぎ、フライトする範囲も広く回収に時間がかかる。飛んでいる選手はよくても、回収するサポート班には過酷な日々が続いているところだ。

フライト中は高く上がるので寒くなる。フライトスーツの下にフリースを着て完全防備の格好で飛ぶが、ランディングすると気温40度を超す灼熱地獄が続いている。

大会

さて、今回の参加数は36カ国、150人。そのうち女子は21人。6月18日から開催され、6月29日までの12日間で合計8本のタスクが成立した。全体的には、今まで行われた大会のコンディションと異なり、東の強風の日が多く、2800mのテイクオフを使用できた日が4日、中間の2100mテイクオフ2回、1280mの低いテイクオフが2回と、上空の強風を避ける日が半分ほどあった。また、この東から北の強風のため、北に広がる大地へのタスクを作ることが出来ず、200kmを超すタスクは組めなかった。以下は、タスク距離と使用したテイクオフサイトの標高。

18日	タスク:78km	TO:2800m
19日	タスク:63.9km	TO:1280m
21日	タスク:123km	TO:2800m
22日	タスク:70.1km	TO:2100m
23日	タスク:92km	TO:2100m
27日	タスク:47.4km	TO:2800m
28日	タスク:89km	TO:2800m
29日	タスク:49.8km	TO:1280m

サーマルもほとんど毎日ブルーサーマル。毎日誰かがレスキューパラシュートを開いてしまうコンディションの中でコンスタントに上位をキープするのは難しい。去年のPWCで優勝をきめた辻選手は、はじめ



タスク距離は平均76.7km。地形がひらけた北方向に飛べれば大きなタスクになったのだが。



地図を囲み作戦を練る日本チーム。

のうち慎重になりすぎていたきらいがある。最初の2本のタスクが終わって、緊急ミーティングをチームで行う。とにかく日本チームとしての得点を上げるため、フライトを立て直すことに。この後チームの順位を上げたものの、目標の3位入賞には届かなかった。

今年目立ったのは、ドイツとイタリアが今まで以上にチームのサポートに力を入れ、ドイツは若手を中心としてチームを編成、イタリアは反対にベテランをチームに入れてきたところ。どちらも編成があたり、国別の入賞を果たすことが出来た。

日本チームの課題は、コンスタントにタスクの上位に入ること。そのためには、ヨーロッパの強豪との大会にもっともって出場して実践で実力をつけるしかなさそうだ。

半谷貞夫チームリーダーから

今回、結果は届きませんでした。チームの目標、3位入賞に近づくことはできませんでした。ここまで戦えたのは、選手たちが成長している証しです。しかし、トップ3に入るだけの技術がなかったこと、底力に欠けたことを事実として受け止め、今後のトレーニングへの取り組みを変えていこうと思います。

日本の選手はトップ集団のなかで戦っています。1位の選手と5分差でゴールする、それくらいの力をつけていますが、その5



トップ3。左から2位、1位、3位。



女子トップ3。右が3位の田中美由喜。

分差を縮めるためには、何事も即座に決断できるだけの経験を積む必要があります。また、今年のようなコンディションでは特に、雑な飛びでは勝てません。繊細な飛びができる実力をつける、それが課題です。

世界選手権では、次から次へと新しい選手が出てきて素晴らしい活躍をします。それだけ選手層の厚い国があるということです。日本でも、世界で互角に戦える選手を数多く育てるために、まずは土壌作りから力を入れていかなければなりません。

入賞者			
1位	DONINI, LUCA	イタリア	5927点
2位	TAMEGGER, CHRISTIAN	オーストリア	5915点
3位	RÖSSEL, OLIVER	ドイツ	5702点
4位	COX, STEVE	スイス	5531点
5位	ARNOLD, MARCO-ANTOINE	フランス	5461点
6位	CARON, JEAN MARC	フランス	5403点
7位	JUNG, SEYONG	韓国	5325点
8位	BRINKEBY, PETER	スウェーデン	5282点
9位	JOOS, ACHIM	ドイツ	5273点
10位	TAPPER, ANGUS	ニュージーランド	5260点
(26位:辻強 34位:只野正一郎 58位:扇澤郁 64位:川地正孝 78位:田中美由喜 88位:宮田歩 91位:水沼典子)			

女子上位者			
1位	CRANDAL, LOUISE	デンマーク	4405点
2位	NUSSBAUM, NICOLE	スイス	3443点
3位	田中美由喜	日本	3178点
4位	KRAUSOVA, PETRA	チェコ	3143点
5位	BRILLE, CAROLINE	フランス	2882点
6位	COCHEPAIN, SANDIE	フランス	2871点
7位	水沼典子	日本	2871点

団体入賞チーム			
1位	スイス	17286点	
2位	ドイツ	17170点	
3位	イタリア	16848点	
(6位 日本 15280点)			

ハンググライディング世界選手権

6月16日の開会式から2週間、アンダルシアのアルゴドナレスでハンググライディング世界選手権が開催された。31カ国からクラス1に140名、2に30名、WAG枠も含めると200名近い選手が出場。日本チームは、クラス1に大門浩二、平林和行、太田昇吾、外村仁克、峰岸正弘、氏家良彦の6名、クラス2に板垣直樹、境卓史、古坂学俊、大沼浩の4名、計10名が、内田孝也チームリーダー、山本貢・石川亜哉子両アシスタントの強力なサポートを得て、世界の舞台に臨んだ。

アルゴドナレスは、セビーリャの南南東約80kmのところにある、白い家々が美しい小さな町。テイクオフサイトは、東ランチと西ランチの2ヶ所あるが、どちらも世界選手権の会場にしては狭い。一度に何機も飛び立てないため、両クラス一緒にランチオーダー方式でテイクオフする。前日の成績に基づいてテイクオフ順が決める方式だ。タスクは、両クラスが近い空域を使用。ゴールは同じだが、安全のためクラス毎に異なったパイロンが設定される。

10月まで雨は降らないというアルゴドナレス。晴天の下、一同張り切って競技初日を迎えたが、風の向きが悪くキャンセル。続く2日も東の強風で飛ばず、20日ようやく競技開始。予報と反対の北西風が入り次々

と降りてしまう選手を後目に、板垣がゴールしてクラス2の3位。幸先のいいスタートを切った。「板垣に続け」とばかり、翌日は境がファーストインゴール。快調なクラス2に比べ、クラス1の日本選手たちは調子が出ず、中盤での挽回が期待された。しかし、ほとんどブルーサーマルで、上がりは渋く、動くタイミングを間違えると取り返しがつかない.....そんなコンディションで、毎日「苦戦」の二文字。

20日から23日まで続けて飛べた後、24日は条件が渋すぎて途中キャンセル。25日は諦めのレストデー。26日に競技再開。一番のロングタスクが生まれ、200機は強い西風に乗っ

てゴールをめざすが、上がらない。少し出たは戻りの繰り返しなのだが、心配されていた空中衝突がランチサイト前で起きてしまった。この事故でウィンドウはクローズになったが、日本選手は全員無事に出発。板垣がゴールし、日本人初のメダルの可能性が見えてきた。

残る3日はコンディションがよくなるという予報に誰もが期待した。27日はクラス1が64名、2が23名の大量ゴール。大門、外村、板垣、古坂、大沼の顔もあり、あと2本頑張らなくて、板垣をお立ち台に!クラス2の団体3位に!ということで、なんと28日はキャンセル。そして最終日。ダストデビル頻発の



日本チーム。これから開会式のパレード。



クラスで2で5位、板垣直樹。



古坂学俊、テイクオフ。クラス2のタスク距離は平均88.1km、クラス1は平均83.2km。

荒れ模様のなかでテイクオフ。タスク半ばで強風に阻まれ、次々脱落。板垣も健闘したがゴールに届かずメダルの可能性は消えた。古坂が最後の頑張り、この日3位のゴールで、締めくくった。

13日間で7フライト。結果は実力に忠実だ。クラス1連覇のマンフレッドは、全タスクでゴール。うち2本は1位、4本はファーストインゴール。誰も止められない強さだ。そしてクラス2チャンピオン、アレクサンドロは、これまた4本で1位という立派な成績。来年のクラス2世界選手権での活躍が楽しみだ。日本チームでは、板垣が5位入賞。クラス2で団体4位。しかしクラス1は振るわなかった。次回のブラジル大会まであと2年。世界のトップパイロットとの戦いを多く経験することはもちろん、現実を直視し、選手が互いの力を引き出しあって飛ぶことを覚えるべきだろう。

最後に。今回からフライト証明にカメラではなく、皆GPSを使用した。選手登録時

にオフィシャルが各選手のGPSにパイロンやゴールの座標を入力。そのデータを頼りにゴールをめざす。パイロンを中心とした円筒形の空域に入ればよく、真上まで行く必要はない。ランディングしたらゴールまたは本部でGPSを提出し報告する。選手も役員も楽だ。世界に遅れをとらぬよう、国内大会でもGPS方式にできるといいが。文中敬称略 広報出版局 松田保子

内田孝也チームリーダーから

日本では、国内ランキングを決める競技会が少し元気がないなあという状況にありますね。それでも、世界選手権の開催中、インターネットを通じて日本のハングパイロットの熱い視線を感じることができました。皆さん、応援どうもありがとう。結果には、ご覧の通りかなり厳しいものを感じますが、本格化してきたクラス2の競技においては納得のいく成績が残せています。ハンググライダーの競技は個人の戦いですが、選手がチームとして行動するとき個人で達成できるよりも大きな成果を得ることができます。世界選手権は、各国が代表を送り込むことからチーム戦という性格が強くなるもので、普通の国際大会とも違うダイナミズムがあります。オーストリアがついに表彰台独占という快挙を成し遂げたのも、チームとしての強さが充実してきているためだと思います。我々の古くて新しい課題が、このチーム作りなのですが、ルーマーのようなスターの登場を待つばかりでなく、日本チームのアイデンティティを確立してチーム選手の育成が必要だと考えています。2年後のブラジル大会に向けて、全員参加でチーム醸成に頑張りましょう。

左から2位、1位、3位。オーストリアが独占。



左から3位、1位、2位。イタリア大活躍。



低高度でゴールに辿り着いた外村仁克。このまま着陸。

クラス1入賞者

1位	RUHMER, Manfred	オーストリア	5190点
2位	HEINRICHS, Gerolf	オーストリア	4929点
3位	REISINGER, Robert	オーストリア	4771点
4位	HOLTKAMP, Rohan	オーストラリア	4485点
5位	BAIER, Bob	ドイツ	4380点
6位	NIEMEYER, Luiz	ブラジル	4172点
7位	BOISSELIER, Antoine	フランス	4137点
8位	BERTOK, Attila	ハンガリー	4123点
9位	GEHRMANN, Guido	ドイツ	4117点
10位	RIGG, Gordon	イギリス	4083点

(57位:大門、56位:平林、82位:氏家、86位:峰岸、87位:外村、88位:太田)

団体-クラス1入賞チーム

1位	オーストリア	15183点
2位	ブラジル	13381点
3位	フランス	12674点
(14位)	日本	8427点)

クラス2入賞者

1位	PLONER, Alessaandro	イタリア	5240点
2位	CIECH, Cristian	イタリア	4984点
3位	TRIMMEL, Manfred	オーストリア	4464点
4位	BUSSINGER, Diego	スイス	4199点
5位	ITAGAKI, Naoki	日本	4184点
6位	CHAUMET, David	フランス	4174点
7位	POSCH, Johan	オーストリア	4086点
8位	MIEDERHOFF, Ralf	ドイツ	3842点
9位	HUPPERT, Michael	スイス	3723点
10位	RAUMAUF, Anton	オーストリア	3608点

(17位:大沼、20位:古坂、26位:境)

団体-クラス2入賞チーム

1位	イタリア	10401点
2位	オーストリア	9239点
3位	スイス	8946点
(4位)	日本	8202点)

イベント、教育、奉仕、フライヤー交流に力を入れています。

石川県フライヤー連盟 理事長 江端 邦昭

県
連
だ
よ
り



獅子吼高原エリアから日本海を臨む。

石川県連の活動

石川県フライヤー連盟は、14年ほど前に発足しました。現在、会員約120名で活動しています。主な活動内容を紹介します。

県内各種イベントの後援 スカイフェスタ

毎年8月初めに開催しています。仮装フライト大会、ヘリコプターからのスカイダイビング、タンデムフライト、夕方より花火大会も催します。ランディング場サイドの駐車場には舞台を作り、歌ありパフォーマンズあり出店ありと賑やかにやっています。是非ご家族総出でいらしてください!

パラ、ハング体験会

主に小中学生を対象として夏休み中に行いたいと計画しています。

フライヤーズカップINシシク

開催時期は10月後半を予定しています。各レベルに合わせて、ターゲットと短いタスクを組んで大会をします。参加資格は特に設けていませんので、奮ってご参加ください。

講演会

11月半ば頃に鶴来町青年の家で、事故体験者の体験談、最近のフライヤー事情等、安全をメインに置いた講演会を予定しています。フォトコンテスト

11月半ば、鶴来町スカイ獅子吼のレストランにおいて、フライヤーの日ごろから鍛えた腕前の写真を出展していただき、一般の方、フライヤーの方に見ていただき、優秀な写真には粗品を進呈します。(どんな種類の写真でも構いません)

石川県連は、今年度より今まで以上に各イベント、教育、奉仕、フライヤー交流に力を入れて、一般社会から承認されること、パラ、ハンググライダーの拡大と底上げを図ります。

県内フライトエリアは獅子吼しかありません。それだけこのエリアを大事にして、楽しい安全な獅子吼へ、鶴来町と一致協力して行きます。

エリア紹介

フライトエリアの獅子吼高原は、白山の入り口にあり、金沢・小松より15km、石川県鶴来町に所在します。山頂へはゴンドラに乗り5分、降りたところより1分がテイクオフ地点です。

今年はテイクオフできる場所が広がりました。横に4機並び、後ろも広くなり、非常にやすくなりました。テイクオフは西向きで、南西から北までカバーしています。眺めもよく、加賀平野と手取川、その先は日本海が一望できます。

ランディング場は、飛び出すとすぐ下に見えてきます。ランディング場よりゴンドラ駅までは歩いて5分ですが、スクールの車が進んでくれます。

エリア使用料は1日1000円、ゴンドラ代は片道800円です。地形の関係でクロスカントリーは条件がよくないと難しいのですが、秋から4月いっぱいはいやしやすい時期となります。

フライヤーにお願いしたい事

最近ハーネスの股ベルトの締め忘れと思われる事故が多発しております。是非とも



大会をはじめ様々なイベントを楽しんでいる。



獅子吼高原。今年はテイクオフ場所が広がった。

バックルのついた新しいハーネスに取り替えるか、改良を施して欲しいものです。また、無理に飛んで事故をおこす例があります。自分のレベルを自覚して絶対に無理をしない勇気を持ち、安全マージンをとった飛行をしていただきたいと思います。

石川県連の連絡先

TEL.0761-24-6695(セントラル食品内)

県連ニュース

東京都ハング・パラグライディング連盟
[東京都にエリアが欲しい!!]

東京都にはエリアがない。エリアのない県連は全国で東京都だけでしょう。フライヤーは優に2000人はいます。エリアを持つことは東京都連の永遠の悲願です。東京都には、広大な多摩丘陵や日出町や奥多摩など自然豊かな丘陵が多くあり、また、湾岸地区には広大な埋立地もあります。皆さんの知恵と努力と自治体の協力が得られれば、何とかエリアを確保できるのではないのでしょうか？ 実際には難しいことだとは思いますが、やってみようではありませんか。東京都の各部局、各区役所、各市町村役場の方々にお願いします。東京都にパラグライダーでフライト出来るエリアを作ることにはぜひ協力してください！ 高さ30mの小山と100m四方の広場だけでも風向きによってはよいエリアになります。湾岸地区に「フライトザウルス」と呼べるような手軽に飛べるエリアがあると面白いと思いませんか？ もちろん、200m～300m程の高さの山から飛べるところがあれば、それに越したことはありません。東京都のフライヤーの皆さん、是非情報収集にご協力ください。

この5月に長谷川前理事長の跡を継いで、東京都連理事長に就任しました日垣昌士です。就任のご挨拶に代えてエリア開発ご協力をお願いします。今後とも都連をよろしくお願

いします。都連へのご希望、情報などはE-mailでお寄せください。

Eメール masa.higaki@nifty.com
[記:日垣昌士]

千葉県ハング・パラグライディング連盟
[県連総会の報告]

7月1日に当連盟の総会を開催しました。議決事項は以下のとおりです。

- 1999年度の決算、2000年度の予算と決算の承認.....承認された
- 2001年度の予算承認.....承認された
- 会費減額の承認 1000円/年.....減額せずにフライヤー保険に加入できるか、調査する。
- 県連盟規約の改正.....承認された
- 事務局移動の承認.....承認された
- 役員会の年会費免除.....役員も会員も基本的にボランティアなので減額しない
- 事務機器購入のための積み立て承認 5000円/月.....承認された
- 県連盟資産のワープロと電話機の資産除却.....承認された
- 理事選出.....3人退任、1名推薦で承認された

理事一同、県連の活動を活発に行い、一般フライヤーが参加しやすい県連にしていきたいと考えています。また、近日中に県連のホームページを立ち上げますので、楽しみにしててください。

福井県フライヤー連盟
[事故防止についてと大会のお知らせ]
福井県スキー jams 勝山エリアでは、昨

年からテイクオフ時のプレフライトチェックを厳行しております。それに加えて、7月1日よりレッグベルト締め忘れ防止装置のついていないハーネスでのフライトが禁止されました。ピジターの方はご注意ください。

9月22日よりスキー jams 勝山にて、スキー jams カップ2001が開催されます。昨年は日本では最大のビッグタスクが成立しており、今年は昨年以上の盛り上がり期待できます。多くの方の来場をお待ちしております。

[記:高田昌平]

三重県フライヤー連盟
[パワードパラグライダー大会]

来る10月7日に、伊勢神宮で有名な伊勢市でパワードパラグライダーの大会が開催されます。参加資格はFLMクラス1保持者、JHF補助動力証保持者です。参加費は5000円と格安です。尚、参加選手は、古式豊かな神宮特別参拝をしていただきます。更に、優勝者には、なんと伊勢神宮司庁より楯と賞金5万円が送られるのです。国立公園指定日本第一号の美しいリアス式海岸の景色を眼下にゆったりとフライトを楽しむことができます。奮ってご参加ください。

大会事務局
スカイレンジャー三重 代表 森川雅也
TEL/FAX 0598-56-4230

[記:森川雅也]

カレンダー

[場]は開催地、[連]は連絡先です。予定は変更になる場合がありますので、お出がけの際は事前に必ずご確認ください。

9月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15 敬老の日	16
17	18	19	20	21	22	23 秋分の日
24	25	26	27	28	29	30

10月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1	2	3	4	5	6	7
8 体育の日	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

山内)TEL.0779-87-6311
第10回鈴鹿バルーンフェスティバル
9月22日～24日 [場]三重県鈴鹿 [連]中部バルーン企画 TEL.0593-83-5667
第16回菅平カップ(PG)
9月29日・30日 [場]長野県須崎市 [連]大会実行委員会(ジオスポーツ内)TEL.03-3886-7427
第12回会津塩川バルーンフェスティバル
10月6日～8日 [場]福島県塩川町 [連]大会実行委員会 TEL.0241-27-2111
2001デサントパードマンカップ獅子吼(HG)
10月6日～8日 [場]石川県獅子吼高原 [連]大会実行委員会(鶴来町役場内) TEL.07619-2-1111
新人戦2001(HG 学生)
10月6日・8日 [場]鳥取県河原町霊石山 [連]日本学生フライヤー連盟関西支部(黒田寛祐)TEL.090-9091-3261 *初高高度飛行から1年半以内の学生フライヤーのみ出場できます。
第3回伊吹山パラグライダーカップ
10月7日・8日 [場]滋賀県伊吹山エリア [連]大会事務局(田中和男) TEL.0726-21-3556
kaz.argon@livedoor.com

米・こめカップ2001(PG)
10月13日・14日 [場]福島県熱塩加納村三ノ倉高原 [連]大会実行委員会(かつ三ノ倉PGスクール内)TEL.0241-36-3363
パラグライディング日本選手権イン白鷹
10月17日～22日 [場]山形県西置賜郡白鷹町白鷹スカイパーク [連]南陽スカイパーク TEL.023-843-2345 FAX.023-672-6219
第18回あぶくま洞オープンカップ
ハンググライディング大会
10月20日・21日 [場]福島県田村郡滝根町仙台平エリア [連]大会事務局(松本圭一) TEL.0244-44-2778
matumoto@soma.or.jp
新潟県知事杯争奪
尾神岳スカイグランプリ(PG)
10月27日・28日 [場]新潟県吉川町尾神岳 [連]大会実行委員会(吉川町役場産業課内) TEL.0255-48-2311
2001年佐賀バルーンフェスタ
10月30日～11月4日 [場]佐賀県 [連]佐賀県S.I.B.F.O TEL.0952-33-3955
2001阿波の国 四国三郎パラグライダー大会
11月23日～25日 [場]徳島県美馬町 [連]大会実行委員会 TEL.089-975-4766

NASA STUDENT CUP 2001
(HG 学生リーグ対象)

8月21日～24日 [場]茨城県新治郡八郷町足尾山エリア [連]大会実行委員会 伊藤宙陸 TEL.090-1405-4607

第6回全日本学生パラグライディング選手権
8月27日～29日 [場]福井県スキー jams 勝山エリア [連]大会実行委員会 小椋洋一 TEL.090-4689-7994

スキー jams カップ2001(PG)
9月22日～24日 [場]福井県スキー jams 勝山エリア [連]大会実行委員会(スキー jams 勝

委員会の動き

PG競技委員会 委員長 曾我部 真人

世界選手権が無事終了しました。今回は選手の意気込みが強すぎ、それが失敗に繋がったようです。そこが競技の難しいところでしょう。オリンピック選手でも本番で力を発揮できるということが非常に難しいのも同じことでしょう。ましてやスカイスポーツは刻々と気象条件が変化する中で成績を上げてゆくには、トータル的な判断力が必要とされます。今回の経験を元に今年度のPWCを応援したいと思います。

日本に目を向けてみると、春から現在まで天候に恵まれ、ジャパンリーグ、公認大会、そして草大会が各地で成立しています。この調子で後半の各大会を始め山形での日本選手権が成立するように願っています。

8月後半の大会より、先日もご案内したGPSでのレースシステムの試験運用を行っていきます。また、選手の皆様にご注意いただきたいのは、2002年度よりジャパンリーグ対象大会の出場資格は、全てXC-P証以上となります。現在P証で大会に出場されている皆様は、早期のXC証取得をお願いします。

HG競技委員会 委員長 大澤 豊

残暑厳しい折いかがお過ごしでしょう。フライトの際には水分を取って熱中症等には十分気を付けてください。

さて、スペインで開催された世界選手権には沢山のご声援ありがとうございました。選手に代わり、お礼を申し上げます。大会情報は競技委員会のHPに掲載していますので、ぜひご覧ください。

ハンググライディングシリーズの次の開催は10月開催予定の2001バードマンカップ獅子吼大会です。詳細はHPに掲載中。どうぞ参加してください。2001HG阿波踊りスカイオープン及び奥羽ラリーは開催中止となりました。

また、ハンググライディングシリーズランキングの中間発表もHPに掲載中です。

尚、事務局にメールをくだされば競技委員会インフォメーションをお送りします。HG競技委員会事務局 FAX.0299-44-1346 E-mail:haku@tomato.saino.ne.jp http://tomato.saino.ne.jp/ haku

/JHF-HG.html

教習検定委員会 委員長 小野寺久憲

DHV視察調査事業

ドイツハンググライダー連盟への視察調査は、予定どおり実施されました。視察調査事業予算は総額で25万円であることから、費用の全額が個人負担であるにもかかわらず参加を申し出ていただいた全国各地の教員11名により視察団が編成されました。DHVの徹底した事故防止対策事業と、完璧と思われる教育システムの実践、そしてパイロットの安全に関わる事項に

ついては絶対的な権限を持つDHVの運営について、視察団一同大きな感銘を受けて帰ってきました。

一例をあげると、過去において8件のレッグベルト締め忘れによる重大事故発生を重視したDHVは、締め忘れ対策システムを搭載していないハーネスの販売を全面禁止、以来この2年間、締め忘れによる事故は発生していないという。パイロットの安全を第一に考えた運営姿勢と、それを実施できる強い権限を持つDHVに大いに学ぶ必要があります。

教習検定委員会では今回の視察結果を、様々な面で有意義に反映させていきます。

2001年度教員検定会の開催

今年度のJHF教員検定会については、近日中に各都道府県連盟と助教員の皆様に開催案内を送付する予定です。JHFのホームページに、教員試験の内容を随時紹介することにしていますから、受検希望の方はホームページをご覧ください。受検準備をしてください。

補助動力委員会 委員長 山崎 勇光

スカイレジャージャパンに参加して

札幌市の北の石狩市でスカイレジャージャパンが開催され、車輪による地上滑走での飛行機が多数占めるなか、唯一自らの足で離陸する動力付パラグライダー(MPG) 動力付ハンググライダー(MHG)で参加した。石狩川の河口よりおよそ3km上流にある、河川敷を利用した800mの芝生の滑走路が会場。

強風のためMPGの演技は中止。MHGのみの演技となった。約2万人の観衆が見つめるなか、滑走路中央から助走開始。みごとなテイクオフである。固定翼に補助動力の組み合わせ、滑空比20:1の翼での余剰馬力は大きく、素晴らしい上昇率を見せてくれた。石狩平野の緑と雄大な石狩川がバックの演技は、補助動力の素晴らしさ、楽しさを観衆の皆さんに伝えられたことと思う。

フライトこそできなかったが、パラグライダー約15名の、ダンスを思わせるライズアップ演技の美しさ。ハング及びパラの体験。MPG、MHGの展示。……と、JHFのめざす空の一体化を眼前で観ることができ、たいへん興奮した一日でした。

暑いなか、ご支援いただいた北海道ハンググライディング連盟の皆様、ありがとうございました。紙面を借りて、お礼申し上げます。

制度委員会 委員長 小林 秀彰

新しい制度委員会のメンバーが理事会で承認されました。2000年度までJHF理事を務められた、神奈川県連盟所属の岩間雅彦氏です。

当委員会では次の課題を抱えています。頼もしいメンバーの加入で仕事が捗りそうです。

今年度の課題

- 1 JHFに関わる制度の定款、規程、規約、規則等の文書管理(CD-ROM化)
- 2 優良パイロット表彰制度案の作成
- 3 選挙制度の見直し案の作成
- 4 理事会諮問事項の対応

安全性委員会 委員長 城 涼一

この原稿を皆様にお読みいただく頃には今期第2回目のJHSC安全セミナーが開催されているはず。開催ご希望の都道府県連盟または地区責任者の方がいらっしゃいましたら、是非ご連絡ください。

ホームページに掲載しているJHSC優良パイロット表彰制度は、JHF全体の制度とすることを担当理事と協議しました。早ければ晩秋には、会長が認証したJHF優良パイロットが誕生することになるでしょう。

JHSCで検討している重要事項としては、「事故調査の基本姿勢」があります。いずれ何らかの形で皆様にお伝えできると思います。

型式登録制度に関しては、強度試験等について独自の基準・試験実施を視野にいれた検討を開始すべきと考えています。また、型式登録に積極的な業者を微力ながら支援することも担当理事と協議中です。

JHSC 型式登録機

安全性委員会(JHSC)において以下の機体が審査を通り登録されました。最新登録状況は、JHFホームページの安全性委員会のページをご覧ください。http://jhf.skysports.or.jp/

輸入パラグライダー

- 2001年6月15日の新規登録
- PI-782 TREKKING 式 ESPADA-SMALL 型
 - PI-783 TREKKING 式 ESPADA-MEDIAM 型
 - PI-784 TREKKING 式 ESPADA-LARGE 型
- 2001年6月25日の新規登録
- PI-785 APCO 式 SIMBA-M COMP 型
- 2001年8月1日の新規登録
- PI-786 カリプトエアース 式 ベクティス M 型
 - PI-787 カリプトエアース 式 ベクティス L 型

輸入ハンググライダー

- 2001年3月15日の新規登録
- I-183 エアボー 式 クライマックス 13 型
 - I-184 エアボーン 式 クライマックス 14 型
 - I-185 ウイルスウィング 式 フェージョン 141SP 型

JHF 6月通常総会報告

2001年6月20日(水)13時から17時まで、東京都の羽田空港ターミナルビル(ビッグバード)ギャラクシーホールにおいて、6月通常総会を開きました。正会員47名中、出席者39名、委任5名、合計出席数44名。議長には大分県連盟の乙咩好信氏が選任されました。

第1号議案 定款変更について

3月総会で審議され承認されたのですが、事務上の手違いにより再度議案が上がったものです。関谷常任理事からの説明に、意義なしの意見が出、直ちに採決。賛成43、反対0、棄権0で可決承認されました。

これによって、定款の連盟事務所所在地の条項を「この法人は、事務所を東京都文京区春日2-24-11春日Shimaビル8階に置く」とし、文部科学省に変更申請することになりました。

第2号議案 2000年度事業報告の承認について
関谷常任理事からの内容説明、質疑応答の後、2000年度事業報告の承認について審議。賛成43、反対0、棄権0で可決承認されました。

第3号議案 2000年度決算報告の承認について
朝日常任理事より当日配布資料1999年度の収支決算関連の訂正を含め、議案説明、坂本監事より5月23日に実施された監査報告があり、質疑応答の後、採決。2000年度決算承認について、賛成42、反対0、棄権1で可決承認されました。

第4号議案 2001年度補正予算の承認について
朝日常任理事の内容説明、質疑応答の後、2001年

度補正予算案承認について、審議。賛成39、反対1、棄権3で承認されました。

第5号議案 役員選任について

川添会長から「現役員の任期が満了しているので役員選挙の選任を求める」として、上程されたもので、選挙については、まず選挙に関する規約を改定すべきだという正会員からの意見も出されていますが、審議前の話し合いで、規約内容の検討は今後の課題とすることが確認されました。

審議の結果、賛成36、反対4、棄権3で、6月総会での役員選挙の実施が決定されました。

役員選挙の結果

JHF役員選挙は、6月通常総会の会場で、正会員の信任投票によって行われました。その結果、立候補した12名、理事候補11名、監事候補1名、全員が新役員として選任されました。

2003年3月31日まで、以下の12名が理事・監事を務めます。尚、7月12日の第1回理事会で、理事互選により役職・担当(カッコ内)が右記のように決まりました。

2001・2002年度 JHF 役員

会 長 朝日 和博 アサヒ カズヒロ
副 会 長 瀬戸口 裕郎 セトグチ ヤスロウ
(安全性委員会・法務委員会)
常任理事 関谷 暢人 セキヤ ノブヒト
(補助動力委員会・国際技能章推進室)
長谷川 光雄 ハセガワ ミツオ
(教習検定委員会)
横尾 和彦 ヨコオ カズヒコ
理 事 伊賀 隆一郎 イガリュウイチロウ
(HG競技委員会)
田中 美由喜 タナカ ミユキ
(PG競技委員会)
藤野 光一 フジノ コウイチ
(制度委員会・PG競技委員会)
松永 文也 マツナガ フミヤ
(広報出版局)
宮川 一郎 ミヤカウ イチロウ
(教習検定委員会・広報出版局)
宮田 富由 ミヤタ トモヨシ
(安全性委員会・法務委員会)
監 事 宮川 雅博 ミヤガワ マサヒロ

理 事 会 ダ イ ジ ェ ス ト

7月12日理事会

2001年7月12日(水)13時30分～19時 場所：JHF事務局会議室 出席：朝日和博、伊賀隆一郎、関谷暢人、瀬戸口裕郎、長谷川光男、藤野光一、宮川一郎、宮田富由、横尾和彦各理事、宮川雅博監事 欠席：田中美由喜、松永文也各理事 (出席理事9名、欠席理事2名、定足数に達し、7月理事会成立。) 議長：関谷暢人

三役選出

会長：無記名投票により朝日が選任された。副会長：挙手により瀬戸口が選任された。常任理事：無記名投票により関谷、長谷川、横尾が選任された。

担 当

HG競技委員会担当：伊賀、PG競技委員会担当：田中・藤野、教習検定委員会担当：長谷川・宮川、補助動力委員会担当：関谷、安全性委員会担当：瀬戸口・宮田、制度委員会担当：藤野、広報出版局担当：松永・宮川、国際技能章推進室は引き続き関谷常任理事が担当することになった。事務局は常任理事がバックアップし、各担当は常任理事会を開き検討することになった。

議案1：文書理事会の承認について

議案1(2000年度決算修正について)、議案2(1999年度決算修正について)前理事による文書理事会を経て6月総会で承認を得ているが、理事会において未承認のため議事に、賛成8、反対0で議案1・2共に承認された。

議案1(FAIカテゴリー2申請：スキージャムカップ2001-PG)、議案2(FAIカテゴリー2申請：2001Cooフルーツカップ-PG)は、賛成8、反対0で2議案共に承認された。

議案1(FAIカテゴリー2申請：2001デサントバードマンカップ獅子吼)、議案2(新世紀記念大会2001霊石山フライトフェスティバルinかわはら)八上姫ジャパンレディースカップの後援依頼については、賛成8、反対0で2議案共に承認された。

議案1(法務特別委員会の設置について)は、文書理事会の結果【文書回収数10、賛成3、反対6、棄権1】が報告され、文書理事会で処理できる問題ではないとの回答が多数を占めたことを受け、理事会の場で審議することに。提案理由ならびに議案説明が瀬戸口よりあり、現在進行中の訴訟についての意見交換も含め討議の後、

・法務特別委員会は性格的には独立委員会とし理事会直属とする。

・「法務委員会規定(案)」は7箇所を修正する。

以上の点を踏まえ採決を行い、賛成5、反対2、棄権1で法

務特別委員会の設置は可決承認された。(表決数は理事1名の退席のため8名となる。)また、法務委員会に対しては理事2名が参加することとし、採決の結果、賛成5、反対3で、法務特別委員会委員4名は承認され、瀬戸口・宮田が同委員会の担当となった。

議案2：安全性委員会

JHSC安全セミナーの実施について

内容を検討し提案者の城安全性委員長に電話確認の後、実施案の場所や規模について修正。その後採決に入り、賛成7、反対0で可決承認された。2001年度個別活動報告書ならびに安全性委員会事業計画書は審議時間の関係で継続審議とする。

レッグベル締め忘れ防止ポスターの製作ならびに予算措置の要望について

レッグベル締め忘れによる事故が多発していることから前向きに検討。賛成7、反対0でポスターの製作は承認され、制作費は予備費から、送料は事務局経費から算出されることになった。

専門委員の委嘱願いについて

菊池守男氏(型式登録等安全基準及び安全確保に関する専門委員)、内藤邦裕氏(気象判断及び安全確保に関する専門委員)の委嘱申請は、賛成7、反対0で承認された。

セフティータグの取り扱いについて

セフティータグを使用して事故が起こったときに生じる責任問題、JHFは製造者になる必要性がない等の意見が出され、賛成0、反対7で、セフティータグの扱いは使用・配布共に否決された。なお、セフティータグの管理については現状報告を求め、適切な指示をする。

議案3：PG競技委員会

以下は継続審議とする。

2001年度年間活動計画・支出計画

2001年度個別活動計画・支出計画

議案4：教習検定委員会

以下は継続審議とする。

2001年度年間活動計画・支出計画

2001年度個別活動計画・支出計画

議案5：補助動力委員会

補助動力技能証規程の見直しと改定...各理事の宿題とする。

専門委員に推薦について

星野納氏の補助動力専門委員推薦は、賛成6、反対0、棄権1で承認された。

議案6：制度委員会

制度委員に推薦について

岩間雅彦氏の制度委員推薦は、賛成7、反対0で承認された。

議案7：選挙管理委員会

選挙管理委員会からのメールについては検討する。千葉県連からの理事会傍聴希望については理由を付して断ることになった。

議案8：「第6回全日本学生パラグライディング選手権」の協賛依頼について各自、検討課題とすることになった。

議案9：スカイレジャージャパン

「2001スカイレジャージャパンイン石狩」開会式に長谷川が出席することになった。

議案10：鳥人間コンテスト

鳥人間コンテスト選手権大会出席の依頼があり、瀬戸口が出席することになった。

議案11-1：SLJ実行委員等

「2001スカイレジャージャパンIN石狩」実行委員交替について、「鳥人間コンテスト審査員」について、上記記載のとおり。

議案12：第7回スカイスポーツシンポジウム

継続審議とする。

議案13：「2001年度版航空宇宙年鑑」

上記年鑑の原稿作成依頼について、各自の宿題とする。

議案14：「航空宇宙人名録」

上記人名録の原稿依頼について、事務局で作成し、会長の決裁を得ることとする。

報告事項

朝日より報告。教習検定委員会を中心としたDHV視察団は7月3日出発した。

スカイレジャー航空無線推進室は当初の役割を終えたとの意見が出され、存続するか否か、次回理事会で協議することとなった。

法務委員会を新設
上記のように、特別委員会として法務委員会が設置されました。理事会に属し、連盟活動全般の法令・定款等に関することを検討する、訴訟問題が発生した場合に理事会の決定に助力する、などの活動を行います。詳細は今後掲載の予定。

@sky

空の情報いろいろありのページ、その名もアット・スカイ。

いつでも心は空の彼方というあなた、必読!

もちろん寄稿も大歓迎。

「お題はなあに?」や「大会報告」、エリア紹介、フライト自慢、JHFへの意見など、どしどし送ってください。

koho@jhf.skysports.or.jp FAX.03-5840-8312

北海道のひろーい空でスカイレジャー・ジャパン開催。

文字どおり空のレジャー&スポーツが集まる「スカイレジャー・ジャパン 01イン石狩」が7月22日、北海道石狩市美登位の石狩川河川敷で開催された。

当日はまずまずの天気で、道内はもちろん、本州からも多数の観客が来場。北海道の雄大な景観と、小型飛行機やモーターグ

ライダー、ヘリコプター、スカイダイビング、そしてモーター(補助動力付)ハンググライダー等のデモフライトを楽しんだ。展示コーナーにはスカイスポーツが勢揃い。また、スカイマーケットやグルメパークもあり、目も舌も満足の「空の祭典」だった。

JHFブースは、北海道ハンググライ

ディング連盟の皆さんがみごとな運営。観客にハング・パラグライディングの楽しさを強力にアピールした。(スタッフの皆さんお疲れさまでした!)

天気はよかったものの、あいにくの強風で、モーターパラグライダーのデモ飛行は中止になってしまった。そのかわり...というわけではないが、パラグライダー約30機が一度にライズアップを披露し、盛んな拍手を浴びた。

高々度は半年ぶり!?

空のヒーローと言えば、注目を浴びたときでしょう。誰もが初飛びを思い浮かべるかもしれませんが、私にとっては半年ぶりの2回目のフライトでした。その日は風もよく、テイクオフしたとたんにみんな次々に上がっていきました。そしていよいよ私の番。おもいきり大空へ飛び出しました。テイクオフはばっちりだったのですが、問題はそこから。もう揺れる揺れる、上がる上がる。風の音が強いせいか、無線の音がよく聞こえない。今までに体験していないこの浮遊感がたまらない! 無事に30分の空の散歩を終えてランディング。皆の注目を思う存分浴びた日でした。スタッフの皆さん、飛ばせてくれてありがとうございました!

ペンネーム: face to sky

ペット?先輩??イントラ???

私は最近、鳥人の仲間入りをしたばかりの57歳です。まだイントラの指導の下、ホームエリアのみでのフライトです。我が家には手乗りのオカメインコのアトム号がいます。生活を共にしているのですが、家の中でアトム号は私と同じようにホームエリアでのフライトをしているのです。私の手のひらに見事にランディングする姿をみて研究しています。アトム号よ、私が還暦の60歳になるときは、一人前のパイロット(大目標XCパイロット)となって赤シャツを着て大空を自由に飛んでみせるから。その時、アトム号に大空のヒーローの称号を与えよう。

ペンネーム: あひるのかっちゃん

サルページ

夏が近づいてくると、私はある人を思い出します。あれは上級機に乗り換えたばかりの

頃、それまでとは比較にならない滑空比と浮きに調子に乗った私は、いつもより低い高度で攻めていました。だんだん低くなり頭がサーマル探しモードから山沈の言い訳探しとお金の計算モードに切り替わったところ、私よりちょっと高いぐらいの高度で近くにきた固定翼の機体がぐるっと旋回し、そのまますると高度を稼いで何事もなかったかのように飛び去って行きました。結果的にその人に救い上げられて飛び続けることができたのですが、あの時その人がいなかったらと思うと心底ぞっとします。あの人のような飛びを目指し、今も修行の日々です。

ペンネーム: 突っ込みマイスター

お題はなあに?

今回のお題は「大空のヒーロー」。
フライヤーの心のなかで大活躍するアツいヒーローとは.....

みんなのヒーロー!

私の大空のヒーローは、彼です。いつも無償で気前よく仕事をしてくれる彼。気分屋で荒々しく怒ったと思えば、数時間後には優しく包み込んでくれる彼。ちょっと落ち着きがなくて、すぐにどこかへ行ってしまおうのが珠に瑕だけど、憎めない彼。そして、60kg近い荷物をひょいと1000mも一気に持ち上げてくれる力自慢の彼.....。そうです、私のヒーローである彼はみんなの

ヒーロー、サーマルッチなのです。

ペンネーム: 漢方

先駆者たち。

HEROと辞書で引くと、英雄、偉人、主人公と出ている。また英雄とは才能や武勇に優れていて立派な事業を成し遂げる人とあり、偉人とは世の中のためになる仕事をして、人々からたたえられる人とある。空の英雄、偉人たちは、やはりこのスポーツを作り、発展させ、その可能性に挑戦してきた先駆者達であろう。より安全に、より高く、より遠くへという努力のおかげで、僕たちはこの素晴らしい翼で空を飛べるのだ。そして、彼らのおかげで僕らはその瞬間、その場所、空の主人公になれるのだ。

ペンネーム: けんじ?

次回のお題は「ハング・パラの必需品」ズバリこれがあると便利!大助かり!という、あなたの「ハング・パラの必需品」を教えてください。モノでなくてもOK。

*

このコーナーでは、お題にそった皆さんの体験談をお待ちしています。笑える話、ホロリとくる話、ビックリする話、大歓迎。200字程度の文章にして、EメールまたはFAXでお送りください。ペンネーム、氏名、住所、電話番号、Eメールアドレスも忘れずに書き添えてください。作品採用の方には、ささやかなプレゼントあり!
Eメール:koho@jhf.skysports.or.jp
FAX.03-5840-8312

「JHFレポートお題はなあにに係」まで。

次回のお原稿締切は9月15日です。なお、文章の主旨を変えずに編集させていただくことがあります。



テレビでお馴染みの鳥人間コンテスト。今回は、実は隠れ「鳥人間」オタクの山本眞がレポートして参りました。

まず、最初から人力プロペラ機部門の優勝を報告してしまうと、3823mで東京工業大学Meisterに決定。多くの強豪チームを押



滑空機部門優勝の美しい機体。

日本の明日に期待したくなった。

第25回鳥人間コンテスト選手権大会報告

山本 眞

さえ込み、今回初の堂々1位。綺麗なできばえの機体で見事なフライトを見せてくれました。

一方、どうしても悔いが残ったのは、日大理工チーム。大変できばえのいい機体でイクオフ。しかし、操縦系統にトラブルがあったらしく琵琶湖を迷走。右に左にそして8の字と、どこに行くかわからない。それでもパイロットの必死の努力で常に10m以上の高度を保ちながらフライト。結果的には2000mあまりの記録となってしまいましたが、実際のフライトは10キロほど。迷走がなければ間違いなく1位を取れていたことでしょう。

そして、滑空機部門では新記録。みたか+もばらアドベンチャーグループが、悪条件のなか巧みな操縦で417mの大記録を達成。主要メンバーがハングフライヤーのこのチームが記録を作ってくれたのは、私個人としてもとてもうれしい出来事でした。

いつの時代も年寄り連中は「最近の若いヤツは」と口にする。しかし、この鳥人間大会を見ていると、若者たちは自分の力で極限設計の機体を何十人というチームをまとめながら見事に作りだしている。これは、あつい情熱なくしてできるものではない。そんな彼らがいるこれからの日本に、私は大いに期待したくなった。

パラグライダー 今昔物語

第九話 PHANTOM

栗山 公秀

懐かしのあの機体、忘れられないこの機体、日本のパラグライディング史に名を残す翼、再登場。

僕のかみさんはフォルクスワーゲンの小さい外車に乗っています。右ハンドル車ですが、他の外車同様左ハンドルをそのまま右に移動しただけの様で、ウィンカーレバーとワイパーレバーが国産車と逆のレイアウトになっています。そのせいでウィンカーを出すつもりでワイパーレバーを操作してしまい、納車日にはディーラーから自宅まで、ワイパーを動かさずに曲がらなかった交差点はありませんでした。

それでもだいたい慣れてきたある日、この車でドライブに行くことになりました。ある道で右折するため対行車が切れるのを待っていました。ある車が止まってくれたので、挨拶のつもりでパッシングしました。

突如、フロントガラスに水が吹き付けられ、何事だと思ふ間もなく、ワイパーがあわただしくフロントガラスを往復します。

そうなんです。パッシングしようとウィンカーレバーを引いたつもりで、ワイパーレバーを引いてしまったんですね。

道を譲ってくれた人、びっくりしたろーなー。道を譲った車がいきなりウィンドウウォッシャー液吹き出すんだもの。もう恥ずかしくて恥ずかしくて逃げるようにその場を去りました。外車購入を検討中の方、十分注意してくださいね。

ファルホークのアスリートとアベックスといういわば王道を歩んできた私、次に選んだのがノバのファントムなのは、ポスト

アベックスとなりえるファルホークのニューグライダーがリリースされなかったからだけではありません。

シンプルな構造ながら、際立って美しい楕円翼は、ブレークコードを引いても後縁がギザギザにならず、あたかもフラップのようにきれいに折れます。このきれいな後縁が当時の機体設計上のポイントで、これが実現できたメーカーが成功を収めました。

スピードは速く、コンペでも登場するなり上位常連グライダーでした。

サイズはアベックスを教訓に少し大きめの45を選択しました(これが大きな間違いで、後々後悔することになる)。

初乗りは飛びなれた標高差120mほどの南郷スキー場。慣れない機体に四苦八苦しながらも950mほどゲイン、当時としては上出来で、ファントムの性能を垣間見た気がしました。

しかし、前世代の機体なら軽目で乗って浮きを良くして飛ぶのが主流でしたが、この頃の機体から適正翼面荷重で乗らないと性能が出ないことがわかってきました。つまり軽すぎたんです。

完全にサイズの選択ミスで、エリア内でのんびり飛んでるだけなら良いのですが、向かい風時に性能が出ず、コンペやクロスカントリー等の場面で非常に不利でした。

そこで泣く泣くウエイトを積み羽目になります。当時は水バラストが使われ始めた頃でしたが、まだハーネスのプレートに鉄



板や鉛板を仕込むのが主流で、僕も5kgほどの鉄板を友人に切ってもらい、ハーネスに仕込んで飛んでいました。このころは軽量パイロットが乗れる小さいサイズのコンペ機で良いのがあまりなく、田中美由喜さんなどは15kg近いバラスト(!)を積んで飛んでいたそうです。ひえー

コンペも低沈下性能を競うのではなく、スピードを競うタスクに変わりつつあり、コンペ機もスピードが重視されるようになってきました。

それにしても滑翔という言葉が似合う飛びっぷりで、僕のお気に入りのグライダーでした。

栗山公秀(くりやまささひで)

初フライトは1987年7月、それ以来パラにはまる。コンペにも参加していたが今は月1~2日程度のマンスリーフライヤー(とほほ)。ホームエリアはスカイパーク宇都宮。現在二児の父。

タメにならない航空史 - 3

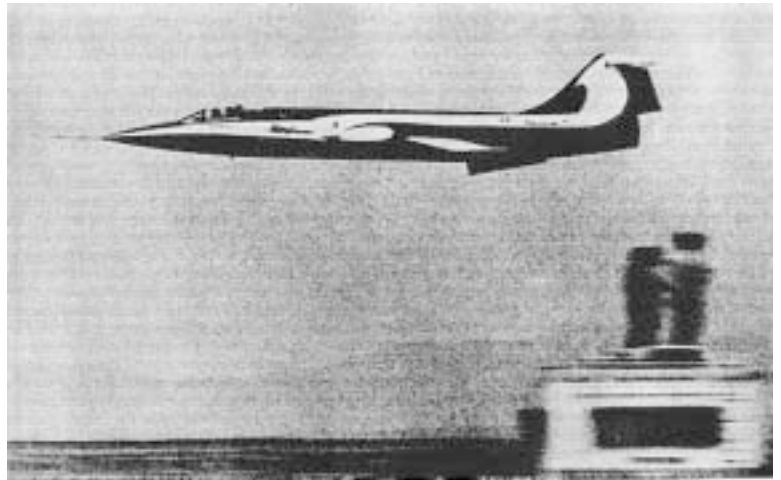
記録狂騒曲

矢ヶ崎弘志

航空の世界は記録の世界でもある。いかに高く、速く、遠くへ飛ぶかを競って、100年近くの間、様々なドラマが繰り広げられてきた。とはいっても、世界記録に挑むとなれば、多大な労力と費用が必要となる。記録の水準が高くなるにつれて、この傾向は強くなるから、個人的な負担では限界があるのは当然のこと。事実、ここ50年以上前から、派手なカテゴリーの世界記録は、アメリカや旧ソ連の軍航空が独占していた。

ダリル・グリーネマイアというアメリカ人がそんな状況を嘆き、1960年代の中頃、民間人による世界記録更新を思い立った。彼は元ロッキード社のテスト・パイロットで、マッハ3の戦略偵察機SR-71(ブラックバード)の試験飛行も手がけている。その経験を生かして狙いをつけたのが、ジェット機の3km直線コース速度記録であった。3kmの計測コースと、その両端につながる1kmずつの計5kmを、高度150m以下で2往復する、速度記録の中では最も条件の厳しいカテゴリーだ。

グリーネマイアの選んだ使用機は、テスト・パイロット時代に馴染んだF-104戦闘機だが、市販されている機体じゃないか



記録飛行中のグリーネマイアF-104

ら、完成機が簡単に入手できるはずもない。空軍のスクラップ置場を根気よく回って廃棄部品を集め、10年かかって組立てたのである(ただし、エンジンだけは空軍から期限付きで借り受けた)。最初の記録飛行は、1977年の春にネヴァダ州トノパ近郊の砂漠で行われた。結果は上々。記録は間違いなく更新したのに、FAIへの公認申請はできなかった。カメラが不調で、コースの標柱通過を証明するシーンが撮影されていなかったのである。

"信頼性の高い日本製カメラを使わず、安物で済ませたせいだろう"などと、口の悪い航空雑誌に冷やかされはしたものの、同年10月24日に行った2度目のトライアルで、

1590.45km/hを記録、この時は計測装置も順調に作動し、3km直線コース速度の世界記録として公認された。

このスピードをマッハ数に換算すると、標準大気状態(気温15、気圧1013hPa)で1.3となる。機体にかかる空力荷重は空気密度に比例するから、高度150m以下をマッハ1.3で飛ぶのは、きわめてリスクが高く容易なことではないのだ。その証拠に、高空ではマッハ2以上で飛行する現代の戦闘機といえども、低空ではマッハ0.9程度に制限されているのである。

というわけで、グリーネマイアの記録は24年たった今も破られていない。

学連だよ! 全員集合!!

学生の皆さんこんにちは! 暑いなか元気に飛んでますか? 8月21日からはスキージャム勝山エリアでのPG学生選手権と足尾エリアでのNASA STUDENT CUPが開催されます。全国の学生フライヤーは参加して大騒ぎしましょう! さて、第2回目となる今回は、3月に行われた学連総会の報告と学連主催大会・イベントについてお知らせします。

学連総会報告

3月10日に全国の各地区連の次期代表者(2年)と代表者(3年)を加えて日本学連の理事(4年)の18人が集まって総会を行いました。主な議題は以下のとおりです。

1 学連公認大会

昨年度から始まった学連公認大会は、今年も引き続き行っていきます。学生の大会やイベントを盛り上げていくために始めました。学生主催の大会で、JHFの公認を取得した大会は学連から援助します。昨年は全部で6大会あり、今年も6~10大会の公認が見込まれています。学連公認を取得した大会の場合、学連に加盟していることが参加資格となります。ご注意ください。

2 HG学生リーグについて

昨年1年間を通しての反省も含めて、以

下の点を考え、確認しました。

- ・とにかく認知度を高めていこう!
- ・サークルの活性化につながるように。
- ・団体戦の得点計算は多くの人に参加してほしいので人数の多いチームの得点を大きくする。
- ・日選出場枠はHG...学生リーグ上位2名
PG...学選上位3名

3 PG学生リーグ

今年から始まる予定のPG学生リーグ。競技志向というよりはお祭り気分でやりたいと私たちは考えています。参加することに意義があるような楽しいものに。HG学生リーグとは違い、競技の結果で得点をつけるのではありません。つまり、学連公認の大会にどれだけ多く参加したか競うものなどはどうだろうか、と考えています。8月6日から行われたグランボレでの学生大会が、PG学生リーグの最初となります。今後、詳しくお知らせしていきます!

4 広報について

もっと多くの人に学連を知ってもらうためにHPの充実とJHFレポートでの情報の発信を行うことにしました。学連の活動だけでなく、学生の細かい活動まで伝えていきたいです。また、学連加盟サークルの

代表者名簿をしっかりとものにし、全国に瞬時に情報を流せるようにします。

年間活動予定

- 8/6~8...PG学生大会(グランボレ)
- 8/7~10...砂丘合宿(鳥取)
- 8/15~17...中国学連合宿(大島)
- 8/21~24...NASA STUDENT CUP(足尾)
- 8/27~30...PG学生選手権
(スキージャム勝山)

9月...東北学連合宿(PG)

10月...HG新人戦(霊石)

11月...HG・PG学生大会(神ノ倉)

HG西日本学選(華山)

3月...HG学生選手権(神ノ倉)

おおまかにこのような予定が決まっています。詳しい日程や場所、または新たな情報はHPで更新していきますので、そちらをご覧ください。

学連への連絡は.....

「学連に加盟したい!」や「もっと詳しく学連のことを教えて欲しい!」やその他学連への応援・苦情などは下記まで。

岡崎勢津子(日本大学3年)

Eメール: jsff2001@hotmail.com

学連HP <http://www.geocities.co.jp>

/outdoors/2273/



空のかお
その38

木村 喜美夫さん
(きむら きみお)



「ハイキングコースの途中にあるパラテイクオフをいつも眺めていた」という木村さんは、栃木県の赤岩山で飛んでいます。初飛びしてから2年、6月にP証取得となりました。飛べる日は機嫌が良いので、家族も喜んで送り出してくれるそうです。これからの目標は「奥さんとタンデムすること」。

お嬢さんも「2番目なら乗ってあげてほしいよ!」と言ってくれているそうです。「日本各地のエリアからクロカンにも出てみたい」とも話してくださいました。新しい目標に向かって思いっきり楽しみながら頑張ってください!

大会報告



鳴倉カップ

2001年6月9日・10日

新潟県北魚沼郡小出町鳴倉山エリア

- 1位 長島 信一 埼玉県 1000.000点
- 2位 大沢 行英 京都府 982.020点
- 3位 後藤 雄大 埼玉県 964.986点
- 4位 川口 竜太 愛知県 948.836点
- 5位 和田 浩二 静岡県 933.515点
- 5位 薮 哲行 兵庫県 933.515点

初日は曇が多い空模様であったが、10時30分頃からダミーが上がりははじめ、20.8kmのタスクで11時にゲートオープン。日差しも強くなり、13時頃からは雲の吸い上げもあったことなどで、32名がゴールすることになりました。2日目はテイクオフにウェィティングするが、雲底が下がり、小雨まじりの天気となってしまうので、11時30分にキャンセルとしました。 [記:南雲昌孝]



ルスツファンカップ2001

2001年6月16日・17日

北海道ルスツエリア

- [エキスパートクラス] 1位 増川 祐哉
- 2位 中村 恵美 3位 木村 文孝
- [オープンクラス] 1位 増川 祐哉
- 2位 大福 寛 3位 工藤 大輔
- [仮装大賞]

- ダイナミック賞 木村 文孝
- ファンタスティック賞 中村 恵美
- ラブリー賞 千葉 久美

2日間とも好天に恵まれて楽しい大会になりました。ぬいぐるみを着て飛ぶ人、トップレスで飛ぶ人など、笑顔いっぱい楽しい大会でした。競技内容は、爆弾落とし、スリッパねらい、セットタイムの総合得点で行われました。 [記:青木章市]

6月・7月のパイロット証取得者

(敬称略 数字は認定日)

パラグライディング

6/1 小林 広行	6/21 小川 聖文
6/1 池田 秀雄	6/21 山下 繁樹
6/4 川上 満夫	6/22 渡邊 秀治
6/4 安部 一之	6/22 石塚 文紀
6/4 佐藤 裕二	6/22 柳田 京夫
6/4 山口 裕介	6/22 和田 正史
6/5 矢口 良明	6/22 小川 恵一
6/5 岸田 佳子	6/22 佐々木晴信
6/5 黒瀬 雅直	6/26 佐藤志保里
6/11 鈴木 香苗	6/26 小山幸次郎
6/11 野田 弥生	6/26 服部 哲也
6/11 四方田政男	6/26 森川 弘康
6/11 井上 金美	6/26 大塚 義之
6/12 小原 茂廣	6/26 木村喜美夫
6/12 藤田 修一	6/26 本田 早苗
6/12 鈴木 浩美	6/26 戸村 明子
6/14 高木 進	7/3 河内山 寛
6/18 安田 賢一	7/3 中島 将晴
6/18 篠原えりか	7/3 岩田 智
6/19 大谷 政伸	7/3 香川 倫弘
6/19 立山 朋幸	7/3 江田 文雄
6/19 福盛 勇	7/3 続木 智宏
6/19 入江 繁	7/3 平間 幸子
6/19 高橋 安男	7/3 井上 靖彦
6/19 横田 哲史	7/3 工藤 衛男
6/21 宮地 雅弘	7/3 真道 祐介

7/3 小山 正純	7/17 永島 光雄
7/3 荒木 明生	7/18 窪田 一美
7/4 内田 健司	7/24 井上美奈子
7/4 MENDES DENIS BARROS	7/24 佐藤 靖彦
7/6 藤井 和重	7/24 齊藤 嗣一
7/6 近藤 昭悦	7/24 松代 稔
7/6 清水 実	7/24 山本 君子
7/9 小川美登里	7/24 石田 一孝
7/10 小西 則幸	7/24 高田 利明
7/10 竹内 博一	7/24 川下 信一
7/11 上嶋 剛志	7/24 八代 武史
7/11 大谷 政男	7/24 加藤 響子
7/12 穴井 重利	7/24 松谷 知明
7/12 吉村 幸祐	7/24 長谷部吉明
7/12 今田しのぶ	7/24 藤森 亮一
7/16 中村 健一	7/24 齊藤 勉
7/17 塚原 由行	7/26 垣見 典男
7/17 大隅 康宏	7/30 林 謙一郎
7/17 阪本 雅之	7/30 秋山 光広
7/17 前越 耕太	7/30 阿部 秀正

7/30 五味 美苗	7/16 吉田 明
7/30 高見 幸夫	7/19 林田 稔
7/30 松岡 司	7/19 宮村 雄二
7/30 橋爪 俊夫	7/19 西村 隆志
7/30 小田島史恵	7/26 岡島 周哉
7/30 松崎 博昭	

訂正 前号掲載の取得者のお名前に間違いがありました。

4月24日認定の「山進」さんは正しくは「高山進」さんです。ここに訂正しお詫びします。高山進さん、失礼しました。

JHF登録スクール 新規登録&変更

- 新規 No. 97 エアロクルーズ(パラグライダースクール) 〒500-8463 岐阜市加納新本町4-17 TEL.058-276-4452 FAX.058-276-4452 <http://www.1sphere.ne.jp/aerocruise/>
- 新規 No. 98 ジェネスパラグライダースクール神立校 〒949-6102 新潟県南魚沼郡湯沢町大字神立4121-1神立高原スキー場内 郵便物送付先 〒336-0017 埼玉県さいたま市南浦和3-33-14-2F) TEL.&FAX.0257-84-3039 <http://genese.co.jp/kandatsu/>
- 変更 No. 14 しらさわパラグライダースクールを名称変更 トップフィールドパラグライダースクールぐんま URLを変更 <http://www.8.wind.ne.jp/topfield/>

7月31日までのフライヤー会員登録数

登録年数	5月31日現在の有効登録数	6月の登録数	7月の登録数	7月31日現在の有効登録数
1年		813	949	
3年		449	621	
合計	14,267	1,262	1,570	15,009

6月・7月の技能証発行数

ハンググライディング				パラグライディング			
技能証種類	6月の発行数	7月の発行数	7月31日までの発行数累計	技能証種類	6月の発行数	7月の発行数	7月31日までの発行数累計
P証	4(2)	7(0)	4,944	P証	42(7)	56(8)	19,241
C証	9(4)	15(4)	6,942	NP証	49(8)	72(17)	9,962
B証	11(4)	19(5)	11,578	B証	76(22)	109(26)	41,299
A証	17(6)	22(7)	12,003	A証	126(35)	163(47)	45,408
補助動力証	1(0)	0	129	補助動力証	1(0)	1(0)	927
XC証	5(1)	3(0)	1,153	補助動力NP証	0	0	66
タンデム証	0	0	37	補助動力B証	0	0	133
				補助動力A証	0	0	162
				XC証	14(1)	14(2)	3,908
				タンデム証	15(0)	13(1)	469

* ()内の数字は発行数中の女性の人数です。

編集を終えて

台風シーズン到来。今年は深刻な被害が出ないことを祈ります。自然の強大さの前では、人間の何と小さなこと。でも、この小さな存在が地球に与える影響の大きなこと。環境保全に配慮しつつ飛行を楽しんでください。 JHF広報出版局

JHFホームページもご覧ください。
<http://jhf.skysports.or.jp/>

JHFレポート9・10月号(No.167)

発行日 2001年8月20日 定価10円
発行 (社)日本ハンググライディング連盟
〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11
春日Shimaビル8階
TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312
編集 JHF企画部広報出版局
印刷 日本印刷(株)
この印刷物は再生紙を使用しています。